みえの子ども白書 2024

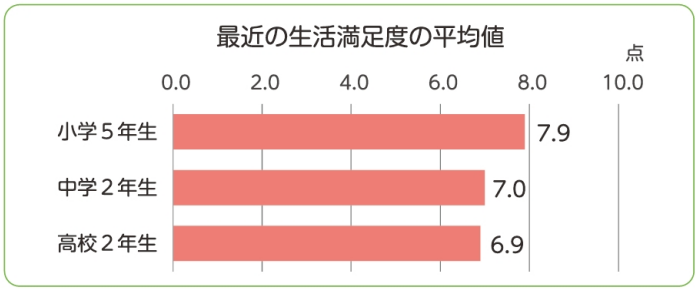
概要版

「みえの子ども白書」は、「三重県子ども条例に基づく調査」の結果を中心に既存の統計調査等も交えて、子どもの生活習慣や自己肯定感、大人や地域との関わりなどをとりまとめたものです。また、保護者調査と子ども調査を紐づけて集計分析を行い、家庭の経済状況が子どもに与える影響について確認しました。

1 子どもの生活と気持ち

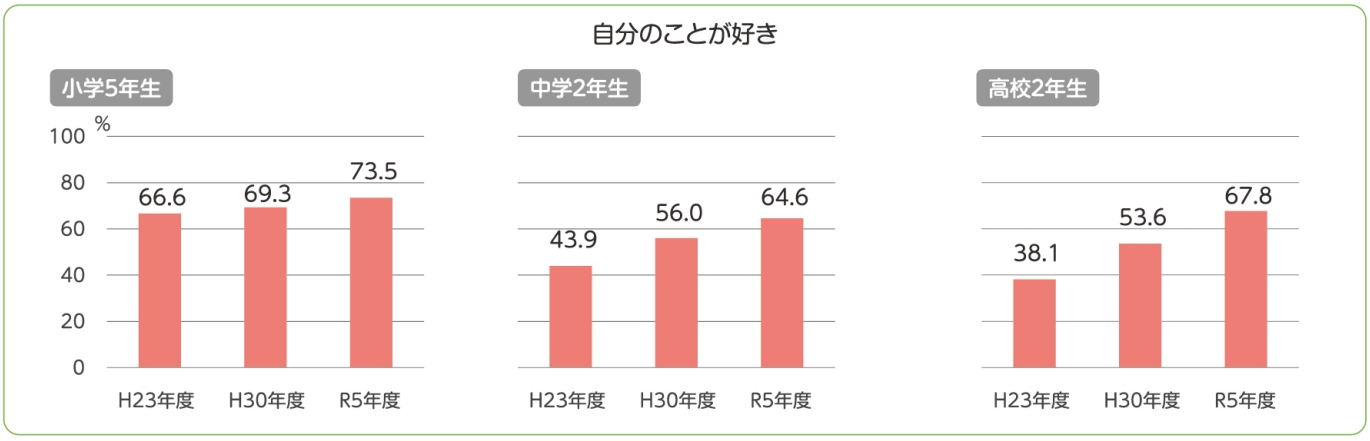
■生活満足度

最近の生活満足度の平均値は、小学生、中学生、高校生と上がるにつれて低下。



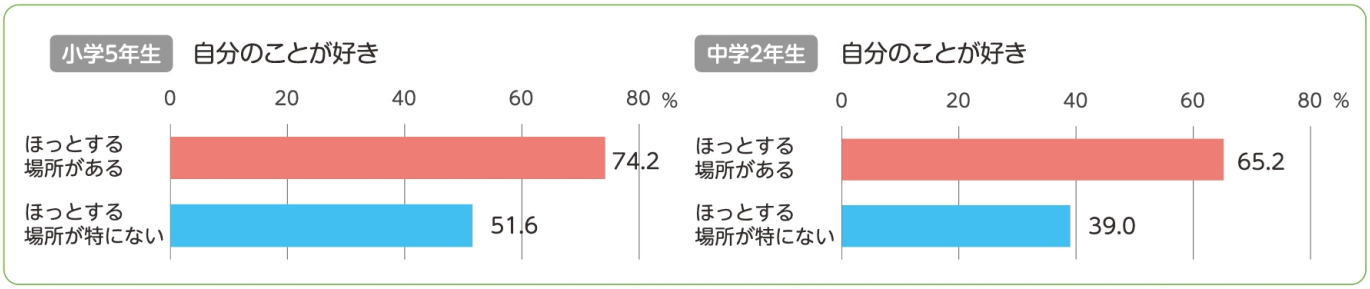
■自己肯定感

自分のことが好きな子どもの割合は、平成23年度と比べて増加。特に中学生、高校生で大きく増加。



■子どもの居場所

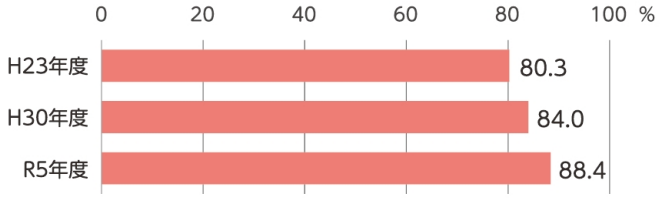
ほっとする場所がある子どもは、特にない子どもより、自分のことが好きな割合が高い。特に小学生や中学生で顕著。



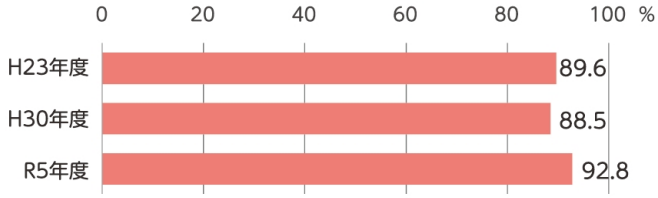
■大人との関わり

・「ふだん生活している中で大切にされていると感じる」、「親などの大人は自分のことを決めるとき意見を聞いてくれる」と答えた子どもの割合は、平成23年度と比べて増加。
・「いつも聞いてくれる」と答えた子どもは、「親などの大人が自分のことをわかってくれていると思う」割合が高い。
・また、「わかってくれていると思う」と答えた子どもは、自分のことが好きな割合が高い。

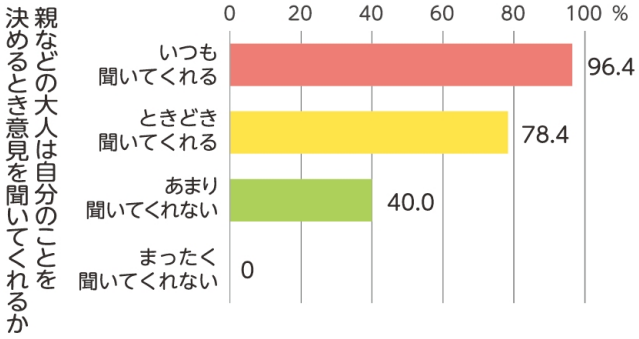
小学5年生　ふだん生活している中で大切にされていると感じる



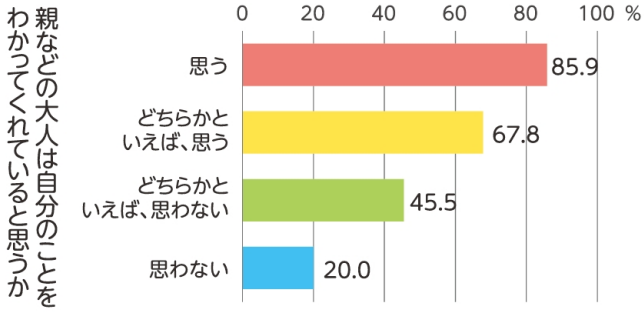
小学5年生　親などの大人は自分のことを決めるとき意見を聞いてくれる



小学5年生　親などの大人は自分のことをわかってくれていると思う



小学5年生　自分のことが好き

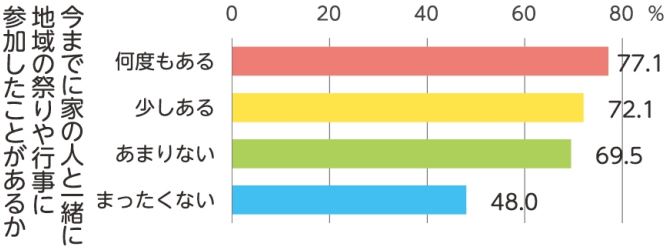


※小学生の調査結果（グラフ）を掲載していますが、中学生、高校生についても同様の傾向がみられます。

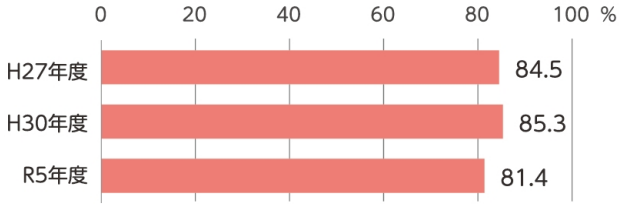
■幼少期の体験機会

・家の人と一緒に地域の祭りや行事に参加した経験が多い小学生は、自分のことが好きな割合が高いが、コロナ禍を境に参加したことがある小学生の割合は減少。
・新しいことにチャレンジすることが好きな小学生の割合は、コロナ禍を境に減少。また、住んでいる地域で取り組んでみたいことについて、「特にしたいことはない」と答えた小学生の割合が増加。

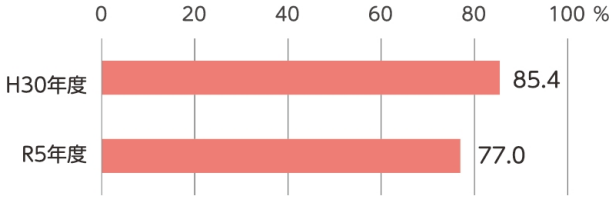
小学5年生　自分のことが好き



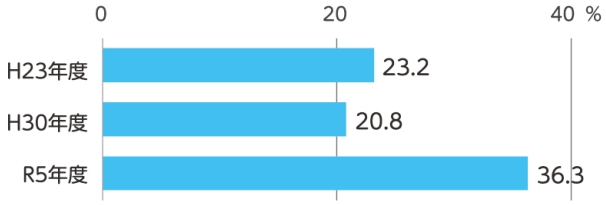
小学5年生　家の人と一緒に地域の祭りや行事に参加したことがある



小学5年生　新しいことにチャレンジすることが好き



小学5年生　住んでいる地域で取り組んでみたいことについて、「特にしたいことはない」の割合



2 困難を抱える子どもたち

〈本白書における等価世帯収入による分類〉

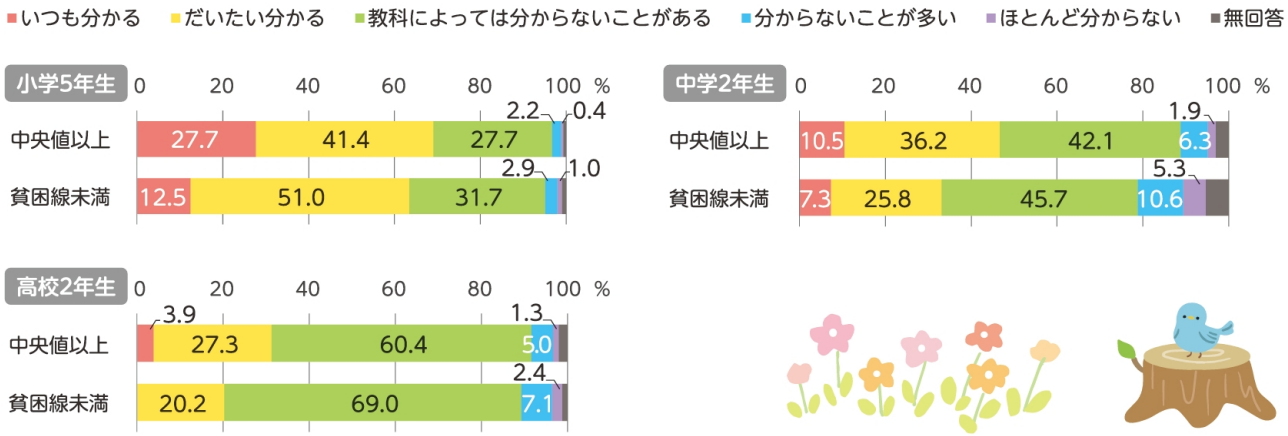
・保護者調査における年間収入に関する回答の各選択肢の階級値（階級の真ん中の値）をその世帯の収入の値とする。（例えば、「50～100万円未満」であれば75万円とする。なお、「1,000万円以上」は1,050万円とする。）
・上記の値を、保護者調査で把握した家族の人数の平方根で除す。
・上記の方法で算出した値（等価世帯収入）の中央値を求め、さらに、その２分の１を「貧困線」とし、「中央値以上」、「貧困線以上、中央値未満」、「貧困線未満」の３つの層に分類している。

※世帯全体の年間収入及び家族の人数のいずれにも回答があった調査票を対象に算出

■貧困が子どもたちの学習に与える影響

貧困線未満の世帯の子どもは、中央値以上の世帯と比べて、学校の授業が分かる割合が低い。

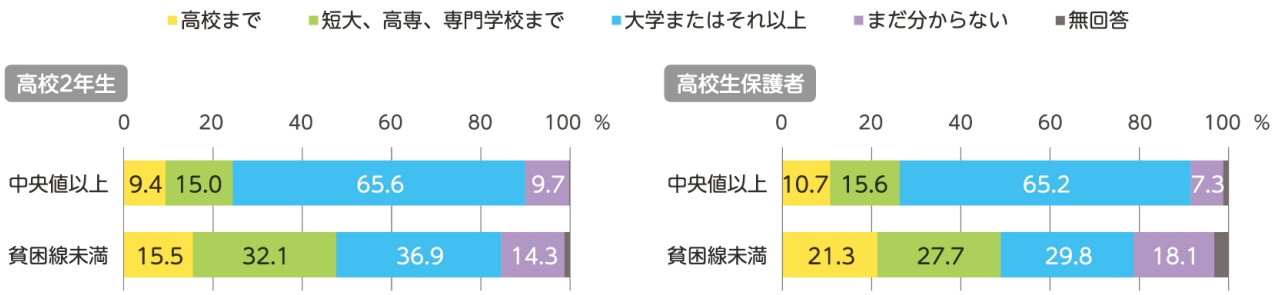
学校の授業が分からないことがあるか



■貧困が子どもたちの進学に与える影響

貧困線未満の世帯の高校生、保護者ともに「大学またはそれ以上」への進学を希望する割合が、中央値以上の世帯より低い。

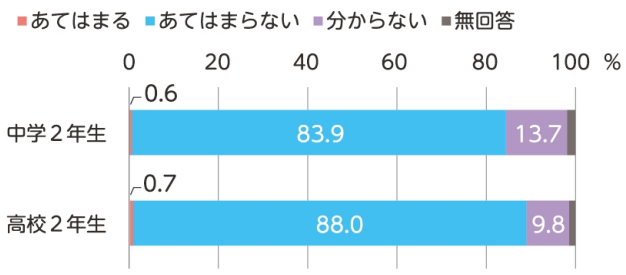
将来、どの段階まで進学したいか



■ヤングケアラーの状況

自身をヤングケアラーにあてはまると思う割合は、中学生、高校生ともに１％未満。

ヤングケラーにあてはまると思うか



■学校に行きたくないと感じるとき

学校に行きたくないと感じるときは、小学生、中学生、高校生ともに「何となくやる気を感じなかったり、気持ちに不安があったりするとき」が最多。

	小学５年生		中学２年生		高校２年生	
1位	何となくやる気を感じなかったり、気持ちに不安があったりするとき	25.7	何となくやる気を感じなかったり、気持ちに不安があったりするとき	39.3	何となくやる気を感じなかったり、気持ちに不安があったりするとき	45.0
2位	友人やクラスメイトから嫌なことをされたとき	10.4	「友人やクラスメイトから嫌なことをされたとき」以外の理由で友人関係に不安があるとき	16.3	「友人やクラスメイトから嫌なことをされたとき」以外の理由で友人関係に不安があるとき	16.9
3位	授業が分からないとき	9.6	授業が分からないとき	11.9	授業が分からないとき	12.8
	学校に行きたくないと感じることはない	45.7	学校に行きたくないと感じることはない	34.3	学校に行きたくないと感じることはない	29.4

3 コロナ禍の影響

■コロナ禍の影響でやりたかったけどできなかったこと

コロナ禍の影響でできなかったことは、小学生、中学生、高校生ともに「旅行に行くこと」が最多。次いで、友だちと過ごす機会や行事への参加機会などが上位。

	小学５年生		中学２年生		高校２年生	
1位	旅行に行くこと	44.6	旅行に行くこと	57.7	旅行に行くこと	57.2
2位	友だちと会話をしながら給食を食べること	43.9	友だちと遊ぶこと	46.2	友だちと遊ぶこと	54.0
3位	友だちと遊ぶこと	40.7	友だちと会話をしながら給食を食べること	41.7	祭りや地域の行事に参加すること	45.4

・図表は、「三重県子ども条例に基づく調査」より作成しています。
・この概要版では、一部項目で分かりやすくするために、設問の選択肢にある「どちらかといえば〇〇である」を「〇〇である」に集約するなどして加工しています。

三重県子ども条例に基づく調査　　調査時期：令和５年（2023 年）８月～９月

調査名		対象者	対象者数(※)	有効回収数	回収率(※)
子ども調査	小学５年生	市町立小学校を市町ごとに各１校、県立特別支援学校３校、私立小学校１校の児童	1,549件	1,286 件	83.0%
	中学２年生	市町立中学校を市町ごとに各１校、県立特別支援学校３校、私立中学校１校の生徒	2,163件	1,943 件	89.8%
	高校２年生	県立高等学校11校（学科別）、県立特別支援学校３校、私立高等学校１校の生徒	1,364件	1,128 件	82.7%
保護者調査		上記の小学５年生の保護者	1,549件	1,234 件	79.7%
		上記の中学２年生の保護者	2,163件	1,697 件	78.5%
		上記の高校２年生の保護者	1,364件	897 件	65.8%
県民調査		29市町の選挙人名簿に基づき無作為抽出	3,000件	1,390件	46.3%

※子ども調査、保護者調査については、令和５年５月１日現在の在籍児童生徒数を対象者数として、回収率を算出しています。

令和6年（2024年）3月
三重県　子ども・福祉部　少子化対策課
〒514-8570　三重県津市広明町13番地
TEL　059-224-2404
FAX　059-224-2270
E-mail　shoshika@pref.mie.lg.jp